

**単機関研究用**

**研究課題名：**食道胃接合部癌に対するロボット支援下噴門側胃切除術におけるダブルフラップ技術（観音開き法）による経胸的食道残胃吻合術の検討

**1. 研究の対象**

当院でロボット支援下噴門側胃切除術および観音開き法による胸腔内食道残胃吻合術を受けられた方

**2. 研究目的・方法・期間**

**・研究目的、方法**

食道胃接合部癌は近年増加傾向にあり、その切除方法および再建法についてはまだ議論の多い分野です。その中でも、観音開き法による食道残胃吻合術は、噴門側胃切除術で消失してしまう噴門の重要な役割である胃食道逆流防止機構を形成する、非常に有効な再建方法です。ただ、縫合の高い技術が必要で、難易度が高く、また、食道長が短くなると通常の腹腔内操作のみでは不可能とされてきました。それを大きく発展させたのがロボット支援下手術です。ロボットの特徴を利用して、胸腔内でも安定した縫合が可能となりました。そこで、2017年3月1日～2022年6月30日までに佐賀大学医学部附属病院一般・消化器外科において、ロボット支援下噴門側胃切除術およびダブルフラップ技術（観音開き法）による経胸的食道残胃吻合術を受けられた食道胃接合部癌の患者さんを対象として、その技術の安全性、有効性を検討します。

**・研究期間** 研究実施許可日 ～ 2024年12月31日

**3. 研究に用いる試料・情報の種類**

情報：患者ID（情報管理に使用）、年齢、性別、身長、体重、診断名、術前状態分類（ASA：American Society of Anesthesiologists）、PS（Performance Status）、前画像診断（消化管造影検査、内視鏡検査、CT、MRI、PET）、血液検査結果（血算、生化学、凝固、腫瘍マーカー）、周術期データ（手術時間、出血量、手術手技、術中合併症）、病理診断、術後経過、術後合併症の有無、合併症に対する治療、術後在院日数、再発の有無、生存期間、転帰

試料：試料なし

#### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報等が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

《照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先》

住 所：〒849-8501

佐賀県佐賀市鍋島5丁目1番1号

佐賀大学医学部附属病院 一般・消化器外科

担 当 者：一般・消化器外科 助教 與田幸恵

電話番号：0952-34-2349

《研究責任者》

佐賀大学医学部附属病院 一般・消化器外科 教授 能城浩和

#### 【この研究の試料・情報の取扱い】

倫理委員会の承認を受けた研究計画書に従い、お預かりした情報等には個人を識別できないよう処理を行い、ご協力者の方の氏名や住所などが特定できないよう安全管理措置を講じたうえで取り扱っています。

このお知らせは当院の研究実施許可日より2024年12月31日までの間、研究対象となる患者さんへの公表を目的に、佐賀大学医学部附属病院臨床研究センターホームページで掲載しているものです。

臨床研究センターHP <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/chiken/>

なお、この研究内容は佐賀大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会で審査を受け、研究機関の長の許可を受け実施されています。臨床研究センターHPでは、佐賀大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会に関する他の情報等も公表していますのでご覧下さい。